

大気汚染物質排出量の時刻別排出量を推計するためのデータ収集について

1 調査目的

個々の発生源、特に小規模発生源からの大気汚染物質の排出量の時間変化を実測により把握することは困難である。そのため、シミュレーションモデルにインプットするインベントリは、時間単位の活動パターンを示していると考えられるデータを用いて、年間の大気汚染物質排出量から1時間単位の時刻別排出量を推計している。この時刻別排出量の推計方法がインベントリ精緻化の課題の一つとなっている。

例えば、東京都のインベントリでは、オフィスビルの活動パターンを示すデータとして都市ガスの時間別送出率を用いている。しかし、都市ガスの時間別送出率は、オフィスビルへの送出率に限定されたものではない。

本調査では、オフィスビル等の業務部門の時間単位の活動パターンを示すデータを検討する。

2 調査方法

主な熱供給先がオフィスビルである地域冷暖房施設を中心にヒアリング調査を実施する。燃料使用量や供給エネルギー等の時刻別データでオフィスビルの活動パターンとして代替できるデータを検討する。